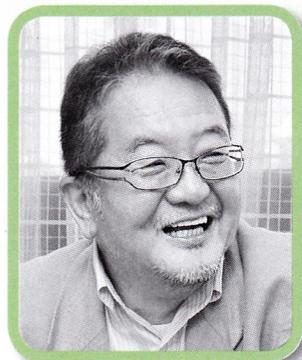


竹本慶三氏・小村市長対談

市民一人 ～自立した“ひとづくり”～

みんなが知恵を出し合い
元気で豊かなまちへ

市長 小村 和年



自主的に行動する ことが大事です

佐世保市商店街連合会
会長 竹本 慶三さん

1950年生まれ。佐世保市商店街連合会会長、長崎観光マイスター、「YOSAKOIさせぼ祭り」実行委員会特別顧問、YOSAKOI九州中国連絡協議会会長などを勤めている。

竹本 これからのまちづくりに必要なのは、やはり人づくりだと思います。私たちにとってイベントをすることは、まちづくりを楽しくすること、まちを舞台に何ができるかを考えることなんです。イベントの開催が、まちづくりについで考えるきっかけとなり、それが人づくりにつながり



▲音戸清盛祭

未来に向けたまちづくり

み収集、生まれた時から亡くなる時まで行政だよりというような状況は、例えると「方眼紙の網の目」のように細かいと言えます。これからは、少しずつ目を広げ、「碁盤の目」「将棋盤」最終的には「囲」という漢字くらいにしたいです。行政が勝手に、そのほかはお互いに知恵を出し合って、元気で豊かな社会にしていきたいですね。

市長 イベントは、企画する人が楽しまないと、良いアイデアも出てこないですからね。海外を訪問したとき、現地の人たちと一緒に炭坑節を踊って盛り上がったんです。イベントに参加して、初めて自分の隠されたエネルギーに気づくこともありませんよ。



▲広子ども祭

市長 「食育」という言葉がありますが、私はそれをもじって「町育(まちいこ)」という言葉を使っています。また「祭育(さいいこ)」という言葉も考えました。祭りが人を育て、人が祭りを育てる。祭りを楽しんでいくことが、まちを元気にするんじゃないでしょうか。

市長 呉でも市制110周年記念イベントとして、プロ野球OBチームがやってくる「ドリームベースボール」や「のど自慢」など市民の皆さんが楽しめるイベントをいろいろ開催し、まちを元気にしていきたいと思います。



▲プロ野球公式戦

す。また、祭りや自然、建造物など、あまりみんなが意識していないものが実は価値があるものだというのを再認識してもらうため、地域のお宝を集め刊行本にする「くれ絆プロジェクト」に現在取り組んでいます。

竹本 地域資源を見つけていくことは大切ですね。「無いものねだり」ではなく、「あるもの探し」なんです。地元にはたぶん気付かないだけで、すばらしい資源がまちにはたくさんありますからね。

市長 このプロジェクトを通して、自分の住んでいるまちを見直し地域に愛着を持つてほしいです。それが、自分たちのまちを元気にしていくんだという気持ちにつながり、地域の絆を深めるきっかけになると信じています。